


**人工光合成研究拠点 公募型共同利用・共同研究成果報告会が開催される**

人工光合成研究拠点では2016年から学外研究者との公募型共同研究を進めてきました。共同研究の総数は5年間で105件になります。人工光合成研究拠点活動5年目を迎えるにあたり、2020年12月8日に人工光合成研究拠点共同利用・共同研究成果報告会を開催しました。今回はZoomを利用したオンライン報告会として開催されました。人工光合成研究センターの受け入れ教員から推薦された選りすぐりの7名による研究成果の発表がありました。


**【成果報告会内容】**

1. 分子内 O-O 結合形成機構に立脚した高活性酸素発生錯体触媒系の開発 坪ノ内 優太 (新潟大学)
2. 光電気化学的水分解反応のキネティクス向上を志向した表面反応場の構築 影島 洋介 (信州大学)
3. ヒドロキシメチルカロテノイドの全合成研究 山野 由美子 (神戸薬科大学)
4. 光合成色素を活用したエネルギー変換デバイス 佐々木 真一 (長浜バイオ大学)
5. CO<sub>2</sub>からのギ酸・メタノール合成に有効な固体触媒の開発 桑原 泰隆 (大阪大学)
6. 金属カチオンドーピングによるタンタル酸ナトリウム光触媒の収率向上メカニズム 大西洋 (神戸大学)
7. 二酸化炭素還元反応のためのチタン酸カリウム微結晶光触媒 吉田 寿雄 (京都大学)

今回の成果報告会では、人工光合成研究拠点の強みである、固体触媒、分子触媒、生体触媒と異分野にわたる人工光合成研究の最新の共同研究の成果が発表されました。Zoomを利用したオンライン報告会ということもあって参加者は50名以上の盛会となりました。なおこ

れまでの公募型共同研究の研究成果は拠点のHPにて概要を紹介しております。ぜひご覧ください。

<https://www.recap.osaka-cu.ac.jp/ap-coe/research/adopted-subject.html>


**北海道大学触媒科学研究所・独フリッツ・ハーバー研究所・東北大学多元物質科学研究所分子科学研究所・大阪市立大学人工光合成研究センター連携情報発信型国際シンポジウム・オンラインの開催**

人工光合成研究拠点は、今年度から北海道大学触媒科学研究所・独フリッツ・ハーバー研究所・東北大学多元物質科学研究所分子科学研究所とで連携した情報発信型国際シンポジウムをオンラインで開催しております。触媒をメインテーマとした国際シンポジウムを開催し、それぞれの機関での研究成果を発信していきます。また新たな国際的国立研究拠点形成を目指し4研究拠点間連携を推進していきます。

第1回の情報発信型国際シンポジウムは「Cutting Edge of Surface Science」をテーマに11月5日にZoomを利用し開催しました。

**【講師】**

1. Yujin Tong (FHI & University of Duisburg-Essen)
2. Satoru Takakusagi (ICAT, Hokkaido Univ.)
3. Tadashi Abukawa (SRIS & IMRAM, Tohoku University)

人工光合成研究センターでは今後もホームページ、Facebookを活用し、光合成・人工光合成に関する情報を積極的に発信できるよう体制強化を進めて参ります。人工光合成研究拠点の最新情報はこちらのFacebookからどうぞ。

<https://www.facebook.com/RECAPOSAKACUACJP>

(今月の担当は天尾豊センター所長でした)

人工光合成研究拠点 ニュースレター

第5巻・第8号 2020年12月14日発行

発行責任者: 天尾豊 (大阪市立大学人工光合成研究センター所長)

編集責任者: 吉田朋子 (同副所長)

<http://recap.osaka-cu.ac.jp/ap-coe/index.html>